

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立西乙訓高等学校 】

1 実践テーマ	京都府テーマ【 III IV V 】・スポーツ庁テーマ【 IV 】
2 実施対象者	<ul style="list-style-type: none"> ・3年スポーツⅡ選抜者17名及び希望者 ・2年5組33名 ・1年生全員（199名） ・シャコピー高校生9名 ・アーリントン訪日団（高校生9名、中学生7名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ スポーツⅡ ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ 国際交流 国際理解 ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1)①ブラインドサッカーを体験することにより、障害を持つ方への理解を深め、ボランティア精神の育成につなげる。</p> <p>(1)③短期留学として訪問中の海外の高校生と交流する内容として、日本の伝統文化であり、京都ならではの「華道」「茶道」を一緒に体験することでおもてなしの心を育成する。</p> <p>(1)③JICA 国際協力講演 「国際協力、国際貢献」という国際社会への関わり方について視野を広げ、2年生での海外研修旅行への心構えも持たせる。</p>
5 取組内容 6 主な成果	<p>(1)①平成30年1月17日（水）3限・4限目 平成30年1月31日（水）放課後 スポーツⅡ「ブラインドサッカー」体験</p> <p>○アイマスクをすることだけでも、普段の動きを自由に行うことができず、困難を感じている。ボールの中に埋め込まれた「音源」を頼りにプレーすることにより、集中することの必要性も感じた。普段当たり前と思っていたことに感謝することや、障害を持つ方への思いやりについても考えることができた。</p>



(1)③平成 29 年 6 月 8 日 (木) 5・6 限目
華道体験


○小松流「中村展山先生」による華道教室
短期留学中のアメリカ合衆国ミネソタ州シャコピー高校生 9 名が、
2 年 5 組グローバルコースの生徒と共に華道の体験を行った。
ペアとなった生徒に英語で説明を聞きながら、バランス等を考えな
がら生け花を体験した。日本の文化に触れて楽しそうであった。



(1)③平成 29 年 7 月 13 日 (木) 5・6 限目
茶道体験

○華道小松流から、茶道の講師として「中村仁美先生」をお迎えし、
アメリカ合衆国マサチューセッツ州アーリントン市からの訪問団
の高校生 9 名と中学生 7 名が 2 年 5 組グローバルコースの生徒と
共に茶道の体験を行った。飲み慣れない日本のお茶を体験し、日本
の文化について少しは理解したのではないかと。



	<p>(1)③平成 30 年 1 月 24 日 (水) JICA による 1 年生を対象とした講演</p> <p>○今年度は、西乙訓高校の卒業生でもある近江望氏により、講演を行っていただいた。現職の小学校教員の時に、青年海外協力隊員としてフィジーのロコ島に 2 年間赴任されていた経験をもとに、文化の違いや海外から見た日本についての話を聞きました。今後海外研修旅行の時には文化の違いを、身をもって経験する時に思い出すことになるでしょう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>スポーツの体験では、自分ひとりだけで視覚に頼らず、聴覚に集中して行動する困難さを知り、ペアの声による誘導練習をまず行った。ふざけたり集中しない行為が危険であることを体験した後、ボールを使ってのパス練習から、誘導付でのゲーム形式まで体験をした。</p> <p>海外の生徒との交流では、実際に手を動かしながら、出来るだけコミュニケーションをとることを心がけた。日本人と違ったところに関心を持つことがあるので、一つ一つの動作を確認しながら行った。</p> <p>国際理解を深めるために、実際に海外での生活等を経験された方を講師として依頼した。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>オリンピック・パラリンピックの実際の競技に対する理解についても深める必要がある。しかし、本校生にとっては、近々若しくは将来的に関わりを持つことを具体的にイメージすることが難しい。国際理解を深め、コミュニケーションの大切さを理解した後に、どのように関わりを持ち、日本の文化の発信も出来るかが課題の一つである。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>3 年生だけでなく、1・2 年生にも体験できる機会を計画する。国際交流の中で、スポーツを通じた交流も考えたい。海外アスリートの著名なスピーチ等があれば英語の活動に取り入れたい。文化祭等で、オリンピック種目の各国の取組を比較して発表できないか検討する。</p>